



Title	a+a 美学研究 第12号 既刊紹介
Author(s)	
Citation	a+a 美学研究. 2018, 12, p. 158-159
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90123
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

Arts and Media

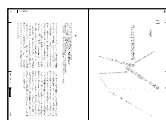
(年1回発行) 定価=本体1,800円+税/編集:『Arts and Media』編集委員会

百学連環の知

大阪大学文学研究科アート・メディア論研究室が発行する本誌『Arts and Media』は、アートとメディアの原初の関係に改めて注目し、芸術をもう一度、情報伝達的手段として見てみたい、そんな熱望から生まれた雑誌である。あるいは逆に、現在、情報伝達のツールとして生まれ、活用されている様々な手段が、今まさにアートへと変貌しつつあるその瞬間を切り取ってみたい。収録される論考は、映画や写真、絵画、建築、文学、マンガ、新聞・ラジオ、演劇、博物館学などなど、実に多彩だ。この「祝祭的な混沌」が生み出すジャンル不明性こそは、ただ本研究室にのみ醸成可能な知的テンションであると自負するものである。

遺伝子の多様性が生命の安全装置として機能するように、我々は文化の多様性を保つことこそが、現代社会に対するある種のセーフティネットになるものと心から信じている。文だの理だのといった狭隘な専門跼蹐の殻を打ち破り、百学連環の知の饗宴をとくと愉しんでいただきたい。

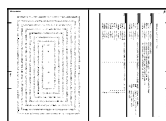
(編集長 桑本野幸司)



2017_
volume
— 07 —
繚乱する知と美、
共感覚的観照を求めて



2016_
volume
— 06 —
渾沌から紡ぎ出す、
境域的思索



2015_
volume
— 05 —
学知が秘める、
快樂の極致



2014_
volume
— 04 —
牙なき時代の学問



2013_
volume
— 03 —
知性を腐らせるな



2012_
volume
— 02 —
共鳴する、
越境のクリエイティビティ

<http://artsandmedia.info>

■ 購入方法=ご注文は、全国の書店(ネット書店含む)までお願い致します。また、松本工房オンラインショップでも直接ご購入いただけます。<http://shop.matsumotokobo.com>

a+a 美学研究

Studies in Aesthetics and Art Criticism

大阪大学美学研究室は2001年から雑誌『美学研究』を刊行してきましたが、第10号を機に全面的に刷新し、『a+a 美学研究』として再出発しました。「a+a」の2つの「a」は、美学(aesthetics)と芸術(art)をあらわします。そして「+」には、私たちのデザイン研究の蓄積がふくまれています。「+」は2つの「a」をつなぐだけでなく、四方へ広がることによって、学問が入びとの生活といかにして関わるのかという問いを形にしています。

定価=本体1,500円+税/編集:大阪大学大学院文学研究科美学研究室

11号 | デザインへの視点

序論

■第1章|近代工芸運動
一九世紀後半の英国におけるインテリアの位置
北村仁美

ドイツの近代工芸運動——ミュンヘンとドレスデンを中心に
池田祐子

柳宗悦の佛教美学
猪谷 聡

■第2章|デザインの言葉たち
デシグナーレ考
横道仁志

つくる・風情・風流——日本におけるデザイン意識の古層
土田耕督

手・様・体——筆跡の語られ方をめぐって
萱 のり子

■第3章|デザイン教育史
イタリアの「デザイン」教育
平井直子

ウルム造形大学における脱パウハウス思想
高安啓介

映像による美的コミュニケーション教育
要 真理子
前田 茂

■第4章|デザインミュージアム
フランス第二帝政期の装飾芸術と展覧会
——「産業応用美術中央連合」の創設をめぐって
島本英明

新しいミュージアムのかたち——工場・製作室・研究所
三木順子

ロボットをめぐる展示の問題
村上 敬

■第5章|デザインの東西交流
朝顔のジャポニスム——園芸と工芸と文芸
橋本順光

英国人リパティの日本視察
平光睦子

■ 購入方法=ご注文は、全国の書店(ネット書店含む)までお願い致します。また、松本工房オンラインショップでも直接ご購入いただけます。<http://shop.matsumotokobo.com>

10号 | 美学への視点 芸術への視点

雑誌の再出発によせて

プラトン『法律』における「テアトロクラティア」
——沈黙する観客からポリス全体による歌舞へ
田中 均

香りのアートはなぜ面白いのか
——従来の「身体論」を越えて
岩崎陽子

芸術の名においてジェノサイドを見ること
——S-21写真に向かうド・デュヴの視点
竹中悠美

過去との出会い
——映画『オルフェの遺言』のなかのコクトー
谷 百合子

E・パークと一七七〇年代の英国プリストル陶磁器
——クエーカー商人R・チャンピオンとの蜜月関係
桑島秀樹

日本のデザイン様式考
——その相反する側面に関する現象学的分析
要 真理子
前田 茂

日常に根ざすアートとアートセラピー
——「エンパワメント」概念によって見えてくる構図
石原みどり

マイノリティのパフォーマンスを引き出すメディア空間
——『フリークスター 3000』にみる空間の多重化
古後奈緒子

・風景と雰囲気
立野良介

・芸術と狂気
・美を知る
横道仁志

・古典主義の聴覚
・詠吟の構成主義
土田耕督

・作品が修理できなくなったとき
福元崇志